Ⅰ　学校調査

１　幼稚園

[Ⅰ-1-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　535園で、前年度より15園減少している。

・　設置者別では、国立1園(構成比0.2％)、公立204園(同38.1％)、私立330園(同61.7％)で、前年度より公立は11園、私立は4園、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市169園、堺市46園、吹田市29園の順に多い。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-1-1表・統計表1・付表-5]

（２）学級数

・　3,089学級で、前年度より165学級減少している。

・　設置者別では、国立6学級(構成比0.2％)、公立522学級(同16.9％)、私立2,561学級(同82.9％)で、前年度より公立は53学級、私立は112学級、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市908学級、堺市313学級、吹田市221学級の順に多い。

・　１園当たりの学級数は5.8学級で、前年度より0.1学級減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-1-1表・統計表1]

（３）在園者数

・　67,972人（男子34,252人、女子33,720人）で、前年度より5,850人減少している。

・　設置者別では、国立150人(構成比0.2％)、公立9,336人(同13.7％)、私立58,486人(同86.0％)で、前年度より国立は5人増加、公立は1,431人、私立は4,424人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児19,884人(構成比29.3％)、4歳児23,131人(同34.0％)、5歳児24,957人(同36.7％）で、前年度より3歳児は1,914人、4歳児は1,967人、5歳児は1,969人、それぞれ減少している。

・　市町村別では、大阪市20,339人、堺市6,697人、吹田市5,517人の順に多い。

・　１学級当たりの在園者数は22.0人で、前年度より0.7人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの在園者数は11.2人で、前年度より0.7人減少している。

[Ⅰ-1-1表・Ⅰ-1-2表・統計表2・付表-5]

[Ⅰ-1-2表] 　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数

・　19,888人（男子9,987人、女子9,901人）で、前年度より2,746人減少している。

・　設置者別では、国立62人(構成比0.3％)、公立3,640人(同18.3％)、私立16,186人(同81.4％)で、前年度より国立は4人増加、公立は811人、私立は1,939人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児16,834人(構成比84.6％)、4歳児2,492人(同12.5％)、5歳児562人(同2.8％）で、前年度より3歳児は1,997人、4歳児は630人、5歳児は119人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-1-2表・Ⅰ-1-3表]

[Ⅰ-1-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



　[Ⅰ-1-1図]　年齢別入園者数の推移 [Ⅰ-1-2図]　公立・私立別入園者数の推移

　

（５）認可定員及び定員充足率

・　認可定員は119,633人で、前年度より2,540人減少している。

また、設置者別では、国立150人(構成比0.1％)、公立24,906人(同20.8％)、私立94,577人(同79.1％)で、前年度より公立は1,835人、私立は705人、それぞれ減少している。

・　定員充足率は56.8％で、前年度より3.6ポイント低下している。

また、設置者別では、国立100.0％、公立37.5％、私立61.8％で、前年度より国立は3.3ポイント上昇、公立は2.8ポイント、私立は4.2ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-1-4表・Ⅰ-1-3図]

[Ⅰ-1-4表] 　　認可定員、在園者数及び定員充足率



[Ⅰ-1-3図] 公立・私立別定員充足率の推移



（６）教員数（本務者）

・　6,051人（男性264人、女性5,787人）で、前年度より161人減少している。

・　設置者別では、国立9人（構成比0.1％)、公立1,169人（同19.3％)、私立4,873人

（同80.5％)で、前年度より公立は61人、私立は100人、それぞれ減少している。

　　　　　　　　　[Ⅰ-1-1表・統計表3]

２　幼保連携型認定こども園

[Ⅰ-2-1表] 　　主要指標の推移



（１）園　数

・　679園で、前年度より29園増加している。

・　設置者別では、公立90園(構成比13.3％)、私立589園(同86.7％)で、前年度より公立は3園、私立は26園、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市132園、大阪市62園、豊中市48園の順である。

[Ⅰ-2-1表･統計表7・付表-5]

（２）学級数（3から5歳児）

・　2,839学級で、前年度より79学級増加している。

・　設置者別では、公立417学級(構成比14.7％)、私立2,422学級(同85.3％)で、前年度より公立は16学級、私立は63学級、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市468学級、大阪市286学級、東大阪市239学級の順に多い。

・　1園当たりの学級数は4.2学級で、前年度と同じである。

[Ⅰ-2-1表・統計表7]

（３）在園者数

・　94,259人（男子48,294人、女子45,965人）で、前年度より2,027人増加している。

・　設置者別では、公立12,389人(構成比13.1％)、私立81,870人(同86.9％)で、前年度より公立は255人、私立は1,772人、それぞれ増加している。

・　年齢別では、0歳児4,598人（構成比4.9％）、1歳児11,401人（同12.1％）、2歳児13,448人（同14.3％）、3歳児21,302人(同22.6％)、4歳児21,460人(同22.8％)、5歳児22,050人(同23.4％）で、前年度より0歳児81人、1歳児368人、2歳児624人、3歳児507人、4歳児36人、5歳児411人、それぞれ増加している。

・　市町村別では、堺市16,840人、大阪市8,709人、東大阪市7,182人の順に多い。

・　3から5歳児の１学級当たりの在園者数は22.8人で、前年度より0.3人減少している。

・　教育・保育職員(本務者)１人当たりの在園者数は6.0人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-2-2表] 　　　　入園年齢別在園者数



（４）入園者数（3から5歳児）

・　10,901人（男子5,618人、女子5,283人）で、前年度より864人減少している。

・　設置者別では、公立2,094人(構成比19.2％)、私立8,807人(同80.8％)で、前年度より公立は408人、私立は456人、それぞれ減少している。

・　年齢別では、3歳児8,029人(構成比73.7％)、4歳児1,789人(同16.4％)、5歳児1,083人(同9.9％）で、前年度より3歳児は181人、4歳児は337人、5歳児は346人、それぞれ減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-2-2表・Ⅰ-2-3表]

[Ⅰ-2-3表] 　　設置者別・男女別入園者数



[Ⅰ-2-1図] 年齢別在園者数　　　　　　[Ⅰ-2-2図] 公立・私立別在園者数の推移

　

（５）認可定員及び定員充足率

・ 認可定員は106,659人で、前年度より4,020人増加している。

また、設置者別では、公立15,049人(構成比14.1％)、私立91,610人(同85.9％)で、前年度より公立は646人、私立は3,374人、それぞれ増加している。

・　定員充足率は88.4％で、前年度より1.5ポイント低下している。

　また、設置者別では、公立82.3％、私立89.4％で、前年度より公立は1.9ポイント、私立は1.4ポイント、それぞれ低下している。

[Ⅰ-2-4表･Ⅰ-2-3図]

[Ⅰ-2-4表] 　　認可定員、在園者数及び定員充足率



[Ⅰ-2-3図]　公立・私立別定員充足率の推移



（６）教育・保育職員数（本務者）

・　15,756人（男性755人、女性15,001人）で、前年度より521人増加している。

・　設置者別では、公立1,818人（構成比11.5％)、私立13,938人（同88.5％)で、前年度より公立は15人、私立は506人、それぞれ増加している。

[Ⅰ-2-1表・統計表9]

３　小学校

[Ⅰ-3-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　986校で、前年度より8校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.3％)、公立966校(同98.0％)、私立17校(同1.7％)で、前年度より公立は8校減少している。

・　市町村別では、大阪市294校、堺市94校、東大阪市49校の順に多く、能勢町0校、田尻町1校、忠岡町・太子町・河南町・千早赤阪村2校の順に少ない。

[Ⅰ-3-1表・統計表13・付表-5]

（２）学級数

・　19,293学級で、前年度より196学級増加している。

・　設置者別では、国立54学級(構成比0.3％)、公立19,004学級(同98.5％)、私立235学級(同1.2％)で、前年度より公立は192学級、私立は4学級、それぞれ増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級13,607学級(構成比70.5％)、複式学級15学級(同0.1％)、特別支援学級5,671学級(同29.4％)で、前年度より単式学級は65学級減少、複式学級は2学級、特別支援学級は259学級、それぞれ増加している。

・　市町村別では、大阪市5,488学級、堺市1,803学級、豊中市1,019学級の順に多く、能勢町0学級、千早赤阪村18学級、田尻町21学級の順に少ない。

また、前年度より大阪市57学級、吹田市18学級、八尾市・寝屋川市17学級の順に増加し、能勢町17学級、柏原市6学級、泉南市4学級の順に減少している。　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・統計表13・付表-5]

[Ⅰ-3-2表] 　 学級編制方式別学級数及び児童数



（３）児童数

・　416,847人（男子212,669人、女子204,178人）で、前年度より5,586人減少している。

・　設置者別では、国立1,859人(構成比0.4％)、公立408,409人(同98.0％)、私立6,579人(同1.6％)で、前年度より国立は5人増加、公立は5,615人減少、私立は24人増加している。

・　学級編制方式別では、単式学級384,847人(構成比92.3％)、複式学級112人(同0.0％)、特別支援学級31,888人(同7.6％)で、前年度より単式学級は7,846人減少、複式学級は31人、特別支援学級は2,229人、それぞれ増加している。

・　市町村別では、大阪市117,033人、堺市41,722人、豊中市22,436人の順に多く、能勢町0人、千早赤阪村161人、田尻町445人の順に少ない。

また、前年度より吹田市135人、箕面市66人、高石市38人の順に増加し、大阪市1,176人、堺市946人、東大阪市506人の順に減少している。

・　１学級当たりの児童数は21.6人で、前年度より0.5人減少している。

　また、市町村別では、大阪狭山市23.9人、熊取町23.6人、吹田市23.4人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの児童数は14.5人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-3-1表・Ⅰ-3-2表・Ⅰ-3-3表・統計表14・付表-5]

[Ⅰ-3-3表] 設置者別・男女別児童数



[Ⅰ-3-4表] 　　　学年別児童数



（４）帰国児童数及び外国人児童数

・　帰国児童数は315人で、前年度間より10人減少している。

・　外国人児童数は5,469人で、前年度より80人増加している。

[Ⅰ-3-5表・Ⅰ-3-6表]

[Ⅰ-3-5表] 　 帰国児童数 　 [Ⅰ-3-6表]　　外国人児童数

 

（５）教員数（本務者）

・　28,799人（男性11,035人、女性17,764人）で、前年度より51人減少している。

・　設置者別では、国立77人(構成比0.3％)、公立28,247人(同98.1％)、私立475人(同1.6％)で、前年度より国立は4人、公立は72人、それぞれ減少、私立は25人増加している。

[Ⅰ-3-1表・統計表16]

４　中学校

[Ⅰ-4-1表] 　　主要指標の推移

 (注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「学級数」「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

・　515校で、前年度より2校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比0.6％)、公立451校(同87.6％)、私立61校(同11.8％)で、前年度より公立は2校減少している。

・　市町村別では、大阪市156校、堺市47校、東大阪市25校の順に多く、能勢町0校、忠岡町・田尻町・岬町・太子町・河南町・千早赤阪村1校、豊能町2校の順に少ない。

[Ⅰ-4-1表・統計表22・付表-5]

（２）学級数

・　8,363学級で、前年度より86学級増加している。

・　設置者別では、国立33学級(構成比0.4％)、公立7,674学級(同91.8％)、私立656学級(同7.8％)で、前年度より公立は87学級増加、私立は1学級減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級6,111学級(構成比73.1％)、特別支援学級2,252学級(同26.9％)で、前年度より単式学級は38学級、複式学級は1学級、それぞれ減少、特別支援学級は125学級増加している。

・　市町村別では、大阪市2,404学級、堺市777学級、東大阪市432学級の順に多く、能勢町0学級、千早赤阪村5学級、田尻町・岬町11学級の順に少ない。

また、前年度より大阪市35学級、吹田市17学級、高槻市10学級の順に増加し、能勢町10

学級、茨木市6学級、交野市・豊能町3学級の順に減少している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・統計表22・付表-5]

[Ⅰ-4-2表]　 学級編制方式別学級数及び生徒数



（３）生徒数

・　219,494人（男子112,046人、女子107,448人）で、前年度より2,116人減少している。

・　設置者別では、国立1,187人(構成比0.5％)、公立196,760人(同89.6％)、私立21,547人(同9.8％)で、前年度より公立は2,058人、私立は58人、それぞれ減少している。

・　学級編制方式別では、単式学級207,614人(構成比94.6％)、特別支援学級11,880人(同5.4％）で、前年度より単式学級は3,195人、複式学級は7人、それぞれ減少し、特別支援学級は1,086人増加している。

・　市町村別では、大阪市61,502人、堺市21,652人、東大阪市10,905人の順に多く、能勢町0人、千早赤阪村99人、田尻町247人の順に少ない。

また、前年度より豊中市206人、吹田市205人、池田市34人の順に増加し、堺市298人、大阪市254人、東大阪市218人の順に減少している。

・　１学級当たりの生徒数は26.2人で、前年度より0.6人減少している。

また、市町村別では、交野市30.3人、高石市29.8人、大阪狭山市29.3人の順に多い。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は13.0人で、前年度より0.1人増加している。

[Ⅰ-4-1表・Ⅰ-4-2表・Ⅰ-4-3表・統計表23・付表-5]

[Ⅰ-4-3表]　 　 　 設置者別・男女別生徒数



[Ⅰ-4-4表] 学年別生徒数



（４）帰国生徒数及び外国人生徒数

・　帰国生徒数は137人で、前年度間より23人減少している。

・　外国人生徒数は2,085人で、前年度より61人増加している。

[Ⅰ-4-5表・Ⅰ-4-6表]

[Ⅰ-4-5表]　 帰国生徒数 　　　 [Ⅰ-4-6表]　外国人生徒数

　　

　　　　　　　　　 　　　　　　　(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」は

含めていない。

（５）教員数（本務者）

・　16,914人（男性9,123人、女性7,791人）で、前年度より204人減少している。

・　設置者別では、国立63人(構成比0.4％)、公立15,469人(同91.5％)、私立1,382人(同8.2％)で、前年度より公立は182人、私立は22人、それぞれ減少している。

[Ⅰ-4-1表・統計表25]

（６）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

学級数は41学級で前年度より2学級増加、生徒数は612人で前年度より39人減少している。

　[Ⅰ-4-7表]

[Ⅰ-4-7表] 夜間その他特別な時間において授業を行っている

学校数、学級数、生徒数及び教員数（本務者）(公立)



５　義務教育学校

[Ⅰ-5-1表] 　　主要指標の推移



(注)夜間その他特別な時間において授業を行っている学校の「生徒数」「担当教員数」は含めていない。

（１）学校数

　　9校で、前年度より2校増加している。　　　　　　　　 　　　 [Ⅰ-5-1表・統計表31]

（２）児童生徒数

・　5,514人（男子2,815人、女子2,699人）で、前年度より1,286人増加している。

・　教員（本務者）１人当たりの児童生徒数は11.0人で、前年度より0.4人減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-5-1表・Ⅰ-5-2表・統計表32]

[Ⅰ-5-2表]　　　　　　　　　課程別・学年別児童生徒数



（３）教員数（本務者）

502人（男性231人、女性271人）で、前年度より131人増加している。

[Ⅰ-5-1表・統計表34]

（４）夜間その他特別な時間において授業を行っている学校

　　生徒数は129人で、前年度より9人減少している。　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-5-3表]

[Ⅰ-5-3表]夜間その他特別な時間において授業を行う

学校数、学級数、生徒数及び教員数（本務者）(公立)



６　高等学校（全日制・定時制）

[Ⅰ-6-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　254校で、前年度と同じである。（府立新設1、大阪市からの移管による府立新設21、府立廃止1、市立廃止21）

・　設置者別では、国立1校(構成比0.4％）、公立157校(同61.8％）、私立96校(同37.8％）である。

・　課程別では、全日制課程のみを置く学校が231校、定時制の課程のみを置く学校が5校、全日制・定時制の課程を併置する学校が18校である。

・　市町村別では、大阪市89校、堺市24校、東大阪市14校の順に多い。

[Ⅰ-6-1表・統計表36・付表-5]

（２）学科数

・　320学科で、前年度より1学科増加している。

・　課程別では、全日制課程294学科、定時制課程26学科である。

・　学科分野別では、普通科190学科、専門教育を行う学科として農業科2学科、工業科22学科、商業科12学科、家庭科3学科、看護科3学科、福祉科2学科、その他の学科49学科、総合学科37学科である。　　　　　　　　　　　　　 　 [Ⅰ-6-2表]

[Ⅰ-6-2表] 　　　　課程別学科数



（３）生徒数

・　202,876人（男子101,572人、女子101,304人）で、前年度より4,386人減少している。

・　設置者別では、国立1,304人(構成比0.6％）、公立109,702人(同54.1％）、私立91,870人(同45.3％）で、前年度より国立は3人、公立は4,860人、それぞれ減少し、私立は477人増加している。

・　課程別では、全日制課程200,443人(構成比98.8％)、定時制課程2,433人(同1.2％)で、前年度より全日制課程は4,014人、定時制課程は372人、それぞれ減少している。

・　学科分野別では、普通科151,515人(構成比74.7％)、その他20,245人(同10.0％)、総合学科15,799人(同7.8％)、工業科9,300人（同4.6％)、商業科3,301人 (同1.6％）の順に多い。

・　市町村別では、大阪市69,933人、堺市17,937人、東大阪市11,538人の順に多い。

また、前年度より枚方市732人、大東市166人、豊中市116人の順に増加し、大阪市2,307人、堺市914人、東大阪市446人の順に減少している。

・　１校当たりの生徒数は798.7人で、前年度より17.3人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は14.4人で、前年度より0.1人減少している。

[Ⅰ-6-1表・Ⅰ-6-3表・Ⅰ-6-4表・統計表38・付表-5]

[Ⅰ-6-3表] 　　設置者別生徒数



[Ⅰ-6-4表] 　　　学科別生徒数



[Ⅰ-6-5表] 　　課程別・学年別生徒数



[Ⅰ-6-1図]　 学科別生徒数



[Ⅰ-6-2図] 学科別生徒数の推移



（４）帰国生徒数及び外国人生徒数

・　帰国生徒数は103人で、前年度間より16人減少している。

・　外国人生徒数は1,253人で、前年度より59人増加している。

[Ⅰ-6-6表・Ⅰ-6-7表]

[Ⅰ-6-6表]　　帰国生徒数 　　　　[Ⅰ-6-7表] 外国人生徒数

　

（５）入学状況

・　入学定員は76,118人で、前年度より2,478人減少している。

また、設置者別では、国立440人（構成比0.6％）、公立39,553人（同52.0％）、私立36,125人（同47.5％）で、前年度より公立は228人、私立は2,250人、それぞれ減少している。

・　入学志願者は115,090人で、前年度より403人増加している。

また、設置者別では、国立488人（構成比0.4％）、公立42,889人（同37.3％）、私立71,713人（同62.3％）で、前年度より国立は10人、公立は487人、それぞれ増加し、私立は94人減少している。

・　入学者は67,821人で、前年度より415人減少している。

また、設置者別では、国立438人（構成比0.6％）、公立36,800人（同54.3％）、私立30,583人（同45.1％）で、前年度より国立は10人、公立は343人、それぞれ増加、私立は768人減少している。

[Ⅰ-6-8表・統計表41]

[Ⅰ-6-8表] 入学状況



（６）教員数（本務者）

・　14,096人（男性9,272人、女性4,824人）で、前年度より203人減少している。

・　設置者別では、国立82人(構成比0.6％)、公立8,636人(同61.3％)、私立5,378人(同38.2％)で、前年度より国立は1人、公立は211人、それぞれ減少、私立は9人増加している。

・　課程別では、全日制課程13,547人(構成比96.1％）、定時制課程549人(同3.9％）で、前年度より全日制課程は188人、定時制課程は15人、それぞれ減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 [Ⅰ-6-1表・統計表42]

７　高等学校（通信制）

[Ⅰ-7-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　13校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、公立1校(構成比7.7％)、私立12校(同92.3％)である。

・　独立校（通信制課程のみの学校)は、私立11校である。

[Ⅰ-7-1表]

（２）生徒数

・　16,839人（男子8,563人、女子8,276人）で、前年度より435人増加している。

・　設置者別では、公立1,805人(構成比10.7％)、私立15,034人(同89.3％)である。

[Ⅰ-7-1表・統計表49]

（３）教員数（本務者）

・　329人（男性190人、女性139人）で、前年度より7人増加している。

・　設置者別では、公立46人(構成比14.0％)、私立283人(同86.0％)である。

[Ⅰ-7-1表]

８　中等教育学校

[Ⅰ-8-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

1校で、前年度と同じである。

[Ⅰ-8-1表]

（２）生徒数

・　75人（男子51人、女子24人）で、前年度より65人減少している。

・　課程別では、前期課程は0人で前年度より33人減少、後期課程は75人で前年度より32人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は4.2人で、前年度より3.2人減少している。

[Ⅰ-8-1表・Ⅰ-8-2表]

[Ⅰ-8-2表] 　　 　課程別・学年別生徒数



（３）教員数（本務者）

18人（男性12人、女性6人）で、前年度より1人減少している。

[Ⅰ-8-1表]

９　特別支援学校

[Ⅰ-9-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　50校で、前年度と同じである。

・　設置者別では、国立1校、公立49校（府立46校、市立3校）で、前年度と同じである。

[Ⅰ-9-1表・統計表50]

（２）在学者数

・　9,820人（男子6,497人、女子3,323人）で、前年度より122人増加している。

・　設置者別では、国立56人(構成比0.6％)、公立9,764人（同99.4％）（府立9,375人(同95.5％)、市立389人(同4.0％)）である。

・　部別では、幼稚部90人(構成比0.9％)、小学部3,011人(同30.7％)、中学部2,670人(同27.2％)、高等部4,049人(同41.2％)である。

・　１学級当たりの在学者数は4.1人で、前年度と同じである。

・　教員(本務者)１人当たりの在学者数は1.8人で、前年度と同じである。

　[Ⅰ-9-1表・Ⅰ-9-2表・統計表51]

[Ⅰ-9-2表] 　　部別・男女別在学者数



（３）教員数（本務者）

・　5,430人（男性2,230人、女性3,200人）で、前年度より20人増加している。

・　設置者別では、国立31人(構成比0.6％)、公立5,399人（同99.4％）（府立5,184人(同95.5％)、市立215人(同4.0％)）である。 　　　[Ⅰ-9-1表・統計表53]

１０　専修学校

[Ⅰ-10-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　219校で、前年度より3校減少している。

・　設置者別では、国立1校(構成比0.5％)、公立1校(同0.5％)、私立217校(同99.1％)で、前年度より私立は3校減少している。

・　市町村別では、大阪市161校、堺市16校、東大阪市5校の順に多く、73.5％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

（２）学科数

・　908学科で、前年度より10学科増加している。

・　設置者別では、国立1学科（構成比0.1％)、公立1学科（同0.1％)、私立906学科(同99.8％)で、前年度より私立は10学科増加している。　　　　　　　　 [統計表54]

（３）生徒数

・　69,758人（男子30,159人、女子39,599人）で、前年度より4,773人減少している。

・　設置者別では、国立34人(構成比0.0％)、公立69人(同0.1％)、私立69,655人(同99.9％）で、前年度より公立は11人増加、私立は4,784人減少している。

・　課程別では、高等課程4,283人(構成比6.1％)、専門課程65,301人(同93.6％)、一般課程174人(同0.2％)で、前年度より高等課程は309人、専門課程は4,478人、それぞれ減少、一般課程は14人増加している。

・　分野別では、文化・教養関係19,587人(構成比28.1％)、医療関係17,862人(同25.6％)、工業関係11,290人(同16.2％)の順に多い。文化・教養関係のうちではその他5,499人、医療関係のうちでは看護6,561人、工業関係のうちでは情報処理4,878人が、それぞれ最も多い。

・　１校当たりの生徒数は318.5人で、前年度より17.2人減少している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は18.7人で、前年度より0.6人減少している。

　[Ⅰ-10-1表・Ⅰ-10-3表・Ⅰ-10-4表・Ⅰ-10-1図・I-10-2図・統計表54・55]

[Ⅰ-10-2表]　 　類型別学校数



[Ⅰ-10-3表] 　　課程別生徒数



[Ⅰ-10-4表] 　　分野別生徒数



[Ⅰ-10-1図] 　分野別生徒数の推移



[Ⅰ-10-2図] 　　　　学科別生徒数の割合



（４）入学者数

・　令和４年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は30,490人（男子12,875人、女子17,615人）で、前年度より2,942人減少している。

・　設置者別では、国立16人（構成比0.1％)、公立43人（同0.1％)、私立30,431人（同99.8％)である。

・　課程別では、高等課程1,596人(構成比5.2％)、専門課程28,720人(同94.2％)、一般課程174人(同0.6％)で、前年度より高等課程は6人、専門課程は2,962人、それぞれ減少、一般課程は26人増加している。

[Ⅰ-10-5表・統計表55]

[Ⅰ-10-5表]　課程別入学者数



（５）卒業者数

・　令和３年４月１日から令和４年３月31日までの１年間の卒業者数は29,868人（男子12,530人、女子17,338人）で、前年度間より628人増加している。

・　設置者別では、国立11人（構成比0.0％)、公立24人（同0.1％)、私立29,833人（同99.9％)である。

・　課程別では、高等課程1,654人(構成比5.5％)、専門課程28,057人(同93.9％)、一般課程157人(同0.5％)で、前年度間より高等課程は87人、専門課程は655人、それぞれ増加、一般課程は114人減少している。

・　卒業者のうち関係分野に就職した者は19,054人で、63.8％を占めている。また、課程別では、高等課程336人(同課程卒業者の20.3％)、専門課程18,712人(同66.7％)、一般課程6人（同3.8％）である。

[Ⅰ-10-6表・統計表55]

[Ⅰ-10-6表] 課程別卒業者数



（６）教員数（本務者）

・　3,724人（男性1,864人、女性1,860人）で、前年度より129人減少している。

・　設置者別では、国立3人(構成比0.1％)、公立6人(同0.2％)、私立3,715人(同99.8％)で、前年度より公立は1人増加、私立は130人減少している。

[Ⅰ-10-1表・統計表54]

１１　各種学校

[Ⅰ-11-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　35校で、前年度より3校減少している。

・ 市町村別では、大阪市24校、東大阪市4校の順に多く、68.6％が大阪市に集中している。

[Ⅰ-11-1表・統計表56]

（２）課程数

65課程で、前年度より6課程減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　　[統計表56]

（３）生徒数

・　8,138人（男子4,644人、女子3,494人）で、前年度より248人減少している。

・　修業年限別では、1年未満の課程1,393人（構成比17.1％）、1年以上の課程6,745人（同82.9％)である。

・　分野別では、その他6,378人(構成比78.4％)、文化・教養関係1,041人(同12.8％)、商業実務関係289人(同3.6％）の順に多い。その他のうちでは、予備校3,519人、外国人学校1,896人、自動車操縦908人の順に多い。

・　１校当たりの生徒数は232.5人で、前年度より11.8人増加している。

・　教員(本務者)１人当たりの生徒数は19.7人で、前年度より0.7人増加している。

[Ⅰ-11-1表・I-11-2表・I-11-3表・Ⅰ-11-1図・統計表57]

[Ⅰ-11-2表] 　　　　 分野別生徒数



[Ⅰ-11-1図] 　　分野別生徒数の推移



（４）入学者数

・　令和４年４月１日から５月1日までの１か月間の入学者数は5,384人（男子3,329人、女子2,055人）で、前年度より275人減少している。

・　課程別では、その他4,502人が最も多い。その中では予備校3,519人が最も多く、入学者数の65.4％を占めている。

　　　　　 　　 [I-11-4表・統計表57]

|  |  |
| --- | --- |
| [Ⅰ-11-3表]  修業年限別生徒数 | [Ⅰ-11-4表]  生徒数、入学者数及び卒業者数 |

（５）卒業者数

・　令和３年４月１日から令和４年３月31日までの１年間の卒業者数は7,050人（男子4,343人、女子2,707人）で、前年度間より674人減少している。

・　課程別では、その他6,372人が最も多い。その中では予備校3,928人が最も多く、卒業者数の55.7％を占めている。

[統計表57]

（６）教員数（本務者）

414人（男性221人、女性193人）で、前年度より28人減少している。

　　　　　　　　　　　　　　　 [I-11-1表・統計表56]